

# Vol.2 ゆとりの会ニュース

## 第2回研修・相談会 「認知症介護の現実」

社会福祉法人 慶生会 ケアプラン事業部  
講師 松原 宏樹

平成24年10月13日(土) 午後3時より

生野区民センター206号室



ゆとりの会 代表世話人 西脇く

その後、松原講師よりなぜ事件に至ったのか？その背景の説明がありました。この事件の原因として、仕事を休職し介護に専念する時が大きな転換時であり、介護を息子がすることで、ケアマネ、ヘルパーという専門職との交流が途絶えしまった事。(松原講師はこうした環境化では、本人と介護者が一体化、共存化してしまうと説明)また、介護者の属性に父親からの教え「他人に迷惑をかける」「自分が辛抱したらええ」等が大きく影響している事を挙げられました。

結論として、家族介護者の孤立感をどう防ぐかは、ゆとりの会のような会が非常に大切であり、活動を広げてもらいたいと締め括られました。

最後に世話人の水野さんよりお礼の言葉と認知サポーター養成講座の説明があり午後4時過ぎに閉会しました。

冒頭、代表世話人の西脇くにおより「ゆとりの会」再開までの過程を説明し、本日講師の(福)慶生会 瑞光苑ケアプラン部門 松原宏樹さんをご紹介し講演がスタートしました。

認知症介護指導者という資格についてご説明があり、

- ①認知症を発症するお年寄りは、厚生省の予想を上回っている事。
- ②若年性は18歳から64歳までであり10代の発症は0では無い事等認知症の説明。
- ③2006年2月1日 京都で起こった介護疲れ、生活苦により認知症の母親を合意の上で殺害し、自らもあと追い自殺しようとした痛ましい事件を、事件が起こってしまったその過程から裁判までを取材したニュースを紹介されました。



講師を招いての第2回研修・相

生野区介護家族ゆとりの会  
大阪市生野区巽南3-7-31  
社会福祉法人三秀會内  
06-6751-8238

